

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局環境安全・防災課

担当課長名：高松 諭

事業名	地域高規格道路 熊本環状道路 一般県道砂原四方寄線 池上工区		事業区分	地方道	事業主体	熊本市	
起終点	自：熊本県熊本市西区池上町 至：熊本県熊本市西区花園7丁目			延長	4.6 km		
事業概要	（一）砂原四方寄線は、熊本都市圏の骨格を形成する「2環状11放射道路網」の外環状のうち、その西側を構成する延長約12kmの地域高規格道路である。熊本市中心部の慢性的な交通混雑を緩和するとともに、広域交通拠点へのアクセス性向上及び物流の効率化などを目的とした事業である。						
H17年度事業化	H11年度都市計画決定		H17年度用地着手		H24年度工事着手		
全体事業費	約313億円		事業進捗率	約86%		供用済延長	— km
計画交通量	21,100~26,700台/日						
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (1.04) (残事業) 5.5 (6.1)	総費用 (残事業)/(事業全体) 348/1,265億円 事業費：331/1,248億円 維持管理費：17/17億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,914/1,914億円 走行時間短縮便益：1,720/1,720億円 走行費用減少便益：167/167億円 交通事故減少便益：28/28億円	基準年 令和4年			
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.5~1.6（交通量±10%） 事業費：B/C=1.5~1.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3~1.7（事業期間±20%）</p> <p>【残事業】交通量：B/C=5.3~5.9（交通量±10%） 事業費：B/C=5.1~6.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=4.4~6.1（事業期間±20%）</p>						
事業の効果等	<p>① 交通混雑の緩和 並行する主要地方道 熊本高森線、主要地方道 熊本田原坂線等では、慢性的な交通混雑が発生しており開通により交通混雑の緩和が期待される。</p> <p>② 拠点アクセス性の向上 熊本都市圏都市交通マスタープランで提唱している「2環状11放射道路網」等が形成され、中心市街地及び周辺の地域核や熊本駅等の交通拠点へのアクセス性が向上。</p> <p>③ 物流の安定輸送による地域産業の支援 整備により、半導体関連等の工業地帯や物流拠点である熊本港までのアクセス性が向上し、速達性や定時性が確保され、物流の安定輸送によりさらなる地域産業の発展が期待される。</p> <p>④ 救急救命活動の支援 整備により、熊本市北部地域から市街地への渋滞箇所を回避でき、平時・災害時を問わず3次救急医療施設への迅速で正確な搬送が可能となる。</p> <p>⑤ 災害時リダンダンシーの確保 整備により、災害時の避難・救急活動支援や災害復旧時の交通混雑緩和、被災により寸断された幹線道路の代替路（リダンダンシー）としての機能が期待される。</p>						
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地元市町（3市4町）及び地元経済界で構成される地域高規格熊本環状道路建設促進期成会より、熊本環状道路の早期整備の要望を受けている。 						
事業評価監視委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事業継続を妥当と認める。 						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に、熊本市、城南町、植木町が合併し、平成24年4月1日に政令指定都市に移行。 ・平成28年度に熊本環状道路の一部である、（一）砂原四方寄線（花園工区）が供用を開始。 ・令和4年度に熊本環状道路の一部である、（一）砂原四方寄線（砂原工区）が事業化。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得率：約99%、事業進捗率：約86% 						

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・用地取得は完了。住民説明会で地元の同意もいただいております、今後の円滑な事業執行が可能。
- ・残工事を計画的に進め、早期供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・トンネル照明LED化等の技術改新、建設発生土の有効利用等により、工事コストの縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

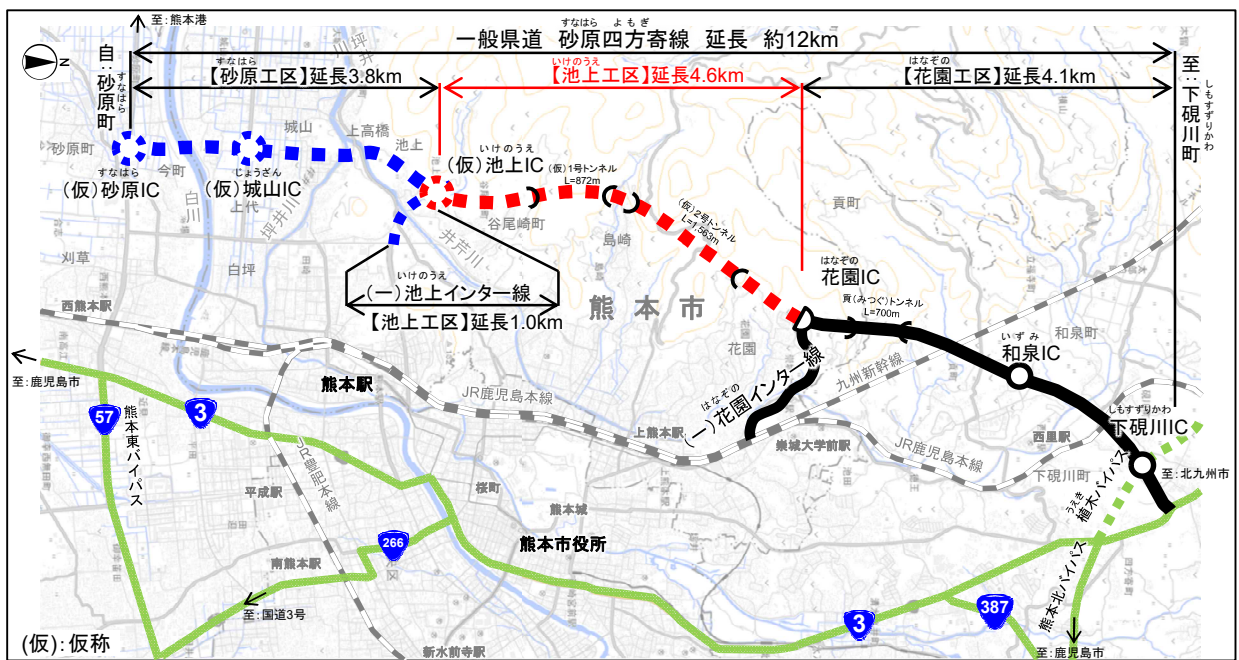
事業概要図

《位置図》



凡例

- 供用区間
- 評価対象区間
- 事業中区間
- 一般国道



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

※ B/Cの値は砂原IC～下硯川ICを一体評価した値、括弧内は区間評価の値。